

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 58
2021.2

TOPICS

1

株式会社中国銀行との地方創生SDGsによる未来共創に関する協定 (おかやま未来共創アライアンス)を締結



本学は2月3日、株式会社中国銀行と、地域の発展に貢献し未来を共創していくことを目的とする連携・協力に関する協定(おかやま未来共創アライアンス)を締結しました。

本学と同行は、2005年3月に包括連携協定を締結し、産学連携による産業振興・ベンチャー育成などを行ってきました。この度のコロナ禍を受け、コロナ後を見据えた地域の課題解決のため、本学が強みを持つAI、IoT、セキュリティを活用した地域企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進することで合意しました。

今後は、地域産業に根差した研究成果の社会実装・ベンチャー企業育成による産業振興と地方創生、新生工学部を基盤としたウィズコロナ・アフターコロナ時代の喫緊の課題である地域企業のDXの加速、リカレント教育による高度専門人材の育成、地域の方々のwell-beingを高めるための岡山大学病院の高度医療サービスの外部提供などについて連携していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9992.html



TOPICS

2

D&Iをメインテーマに令和2年度「岡山大学未来懇談会」を開催

本学では、次世代を担う若手教職員が自由な発想で持続可能な岡山大学を考える新たな大学ガバナンスプラットフォームとして「岡山大学未来懇談会(未来懇)」を平成29年度より開催しています。本年度は「岡山大学ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)のさらなる深化に向けて」をテーマとして、2月9日にオンラインで開催しました。

榎野博史学長は「強靱な大学組織をつくるためにはD&Iに配慮した次世代人材の育成・発掘が重要であり、本会では自分の部署の課題だけにとらわれることなく、SDGs推進研究大学の一員として、長期的かつ俯瞰的な視点も踏まえた議論を行ってほしい」とあいさつ。参加者は3グループに分かれ、それぞれ「ジェンダー」「障がい者」「外国人研究者・留学生」をテーマに現状と課題などについて活発な議論を行いました。現状と課題などを共有し、それらをクリアするための具体的な施策についての提言などを行いました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10025.html



Pick up!

岡山大学病院に「コロナ・アフターケア外来」を開設



岡山大学病院は2月15日、総合内科・総合診療科に「コロナ・アフターケア外来」を設置しました。

新型コロナウイルス感染症は、詳細な実態に未だ不明な点も多いですが、回復した後も筋力低下、不眠、呼吸困難、脱毛、嗅覚異常、不安・抑うつなどの後遺症で悩んでいる患者さんが潜在的に多いと報告されています。「コロナ・アフターケア外来」では、岡山県内でそのような後遺症で苦しむ方々に対して、他の診療科とも連携して専門性の高い医療を提供することを目的としています。大学病院ならではの専門的な検査や他の診療科との連携を生かし、総合内科・総合診療科が中心となって診断・治療にあたります。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10021.html



TOPICS

3

2020キャンパスベンチャーグランプリ全国大会で 理学部・久保さんが経済産業大臣賞を受賞！

1月29日に開催された学生起業家の登竜門「第17回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」に、本学理学部4年の久保駿貴さんが出場し、経済産業大臣賞を受賞しました。

キャンパスベンチャーグランプリは、大学院、大学、高等専門学校、短期大学、専門学校などに在籍する学生を対象にビジネスプランを募集、審査、表彰する事業です。今年度は全国8地区から800以上のチームが参加。久保さんは就職活動の最終面接に落ちた学生を企業間で推薦・採用できるプラットフォーム『ABABA』を提案し、中国大会で最優秀賞を受賞して全国大会への出場を決めました。

全国大会はコロナ禍のためオンラインで開催され、12人・チームが各自のビジネスプランを提案。事業内容への明確なイメージ、成長性、熱意などの観点で審査が行われ、『ABABA』を提案した久保さんが経済産業大臣賞に選ばれました。久保さんは「多くの方に評価していただき、今の新卒採用における課題に対して改めて必要なサービスであると再認識できました。さらに勢いをつけて事業を成長させ、より多くの就活生の手助けとなるサービスを目指し、『企業同士が連携した採用』の世界を実現したいと思います」と話しています。

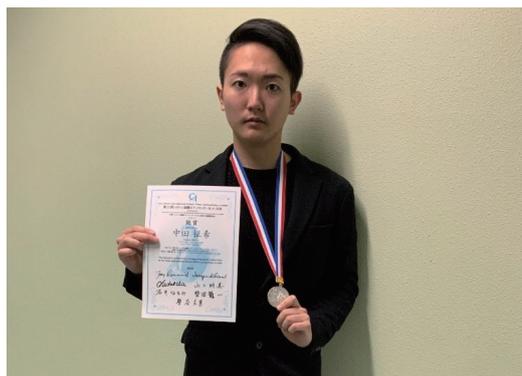
参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10037.html



TOPICS

4

医学科5年生の中田さんが第22回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA (Final Stage)で銀賞を受賞！



1月18日、第22回ショパン国際ピアノコンクールin ASIA (Final Stage)にて、本学医学科医学科5年生の中田征希さんがショパニストB部門で銀賞に輝きました。

コロナ禍という困難な状況で行われたこの大会は初のオンライン開催となりましたが、中田さんは医学科生としての多忙な学業の合間に、幼い頃から続けてきたピアノの練習に一層磨きをかけ、オンラインでも実力を発揮。地区予選、全国大会、国際大会進出を決め、今回の快挙に至りました。

中田さんは「まずこの大変なコロナ禍にコンクールを開催して下さった関係者の皆様に御礼申し上げます。例年に比べ、ステージでの本番が極端に少なく環境の異なる中ででのチャレンジとなりましたが、学生生活の集大成として名誉ある賞を頂けて幸いです。今後もより多くの方々に演奏を聞いていただけるよう、自分の音楽と向き合い続けたいと思います」と話しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10012.html

PRESS
RELEASE

AIを用いて見た目年齢や感情を瞬時に評価！ ～パーキンソン病患者さんの顔のAI解析～

大学院医歯薬学総合研究科(医)脳神経内科学の阿部康二教授と岡山大学病院の森原隆太助教、田所功医員らの研究グループは、AIを用いて、神経難病のひとつであるパーキンソン病患者の顔の特徴を定量的に解析し、見た目年齢が高く、喜びが少ないという特徴を世界で初めて見出しました。

パーキンソン病は手のふるえや動きのしぶさを特徴とする神経難病ですが、顔の表情が乏しくなることも知られています。こうした顔の変化は患者さんの社会生活に大きな影響を与えるにもかかわらず、客観的に評価することが困難でした。本研究では、パーキンソン病患者さんの顔の特徴をAIを用いて瞬時に解析し、同年代の方と比較して、見た目年齢が高く、喜びが少ないといった特徴を数値として見出すことに世界で初めて成功しました。症状を数値化することで、治療の目安となることが期待されます。研究成果は1月7日、英文オンライン科学雑誌「Brain supplement」に掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id811.html

